

2026 年 1 月 7 日

## 新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、下記の検査項目を新たに受託開始させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

今後も弊社では皆様方のご要望にお応えできるよう、検査内容を充実させて参りますので、何卒お引き立ての程、宜しく願い申し上げます。

敬白

記

### 【新規受託項目】

コードNo.	検査項目名
14152 (従来システム 6607)	便中カルプロテクチン/ラテックス凝集比濁法

カルプロテクチンは主に好中球に存在する炎症応答蛋白質で、腸管炎症時に糞便中に流出するため、糞便中濃度は腸管炎症の程度を把握することが可能です。

潰瘍性大腸炎(UC)とクローン病に代表される炎症性腸疾患(IBD)の診断や活動性の評価には、内視鏡検査での観察と組織評価が必要ですが、侵襲的な内視鏡検査は患者の負担が伴います。

本検査はIBDなどの器質的疾患と過敏性腸症候群などの機能性腸疾患の鑑別や、潰瘍性大腸炎とクローン病の病態把握に有用な非侵襲的な検査です。また、臨床的に寛解状態における糞便中カルプロテクチン濃度の上昇は再燃につながる事が報告されており、再燃予測が可能となります。

この度、ラテックス凝集比濁法の試薬を用いた検査の受託を開始いたします。

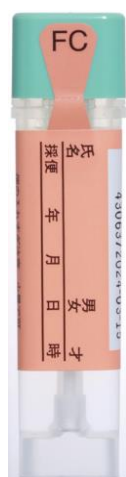
### 【開始時期】2026 年 2 月 2 日(月) ご依頼分より

- 当該検査の受託開始に伴い、現行のカルプロテクチン(便中)/FEIA(コード No.13068(従来システム 4954))は、2026 年 3 月 30 日(月)ご依頼分をもって検査の受託を中止させていただきます。

## 【受託要領】

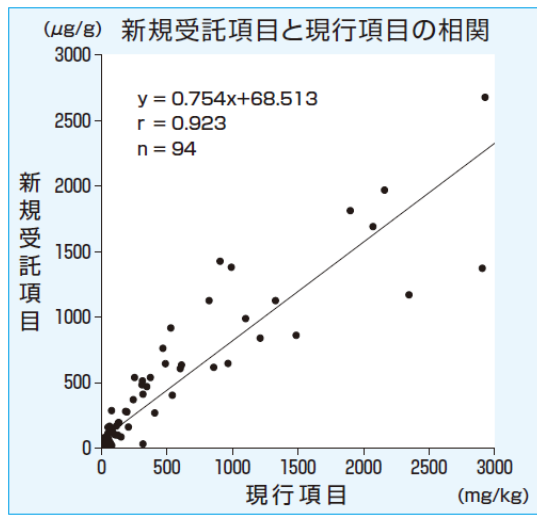
	新規受託項目	ご参考: 現行項目
コード No.	14152 (従来システム 6607)	13068 (従来システム 4954)
検査項目名	便中カルプロテクチンLA	カルプロテクチンFEIA
検体量	糞便	糞便 1.0g
採取容器	専用容器(下欄参照)	53
保存方法	冷蔵	凍結
検査方法	ラテックス凝集比濁法	FEIA
基準範囲	50.0以下	同左
	炎症性腸疾患の診断補助： 50.0以下 潰瘍性大腸炎の病態把握の補助： 300.0以下 クローン病の病態把握の補助： 80.0以下	炎症性腸疾患と機能性腸疾患との カットオフ値：50.0 潰瘍性大腸炎の内視鏡的活動性 評価のカットオフ値：300.0 クローン病の内視鏡的活動性 評価のカットオフ値：80.0
単位	$\mu\text{g/g}$	mg/kg
所要日数	3～5日	3～7日
報告範囲	20.0以下～2720.0以上	3.8以下～6000以上
報告桁数	小数第1位	同左
検査実施料/判断料	268点 /尿・糞便等検査 34点	同左
備考	専用容器にてご提出ください。 他項目との共用依頼はできません。	他項目との共用依頼はできません。 採取後3日以内に凍結してご提出ください。

## &lt;便中カルプロテクチン LA 専用容器&gt;



- 新規受託項目の検体採取方法は、専用容器に添付されている説明書をご参照ください。
- 糞便を採取した専用容器は、専用の提出用袋(紫色)に入れてご提出ください。

< 相関図（ご参考） >



(委託先検討資料)

《検査方法の参考文献》

山本彩香, 他: 医療と検査機器 43, 593～598, 2020.

以上